輸血用血液製剤でC型肝炎が疑われた事例 (2月15報告)について

1 経緯等

平成18年2月15日、日本赤十字社から輸血(赤血球濃厚液)によるHCV感染の疑いの症例の報告があった。その後、当該症例の死亡が確認され、日本赤十字社から3月8日に追加報告があったものである。

2 事 例

70歳代の男性。原疾患は血液腫瘍。平成17年8月13日から平成18年1月30日までの間に、輸血(濃厚血小板液10単位47本、赤血球濃厚液2単位21本、新鮮凍結血漿5単位7本、同2単位4本、同1単位2本)を実施。患者は、2月19日に急性循環不全により死亡。患者の輸血前(8月12日)のHCV抗体検査は陰性であったが、本年1月30日にHCVコア抗原の陽性が確認され、2月14日のAST/ALTは67/192であった。

3 状況

- (1) 輸血された輸血用製剤について
 - ・ 当該患者には、81人の供血者から採血された赤血球製剤、血小板製剤及び新 鮮凍結血漿を輸血。
 - ・ 当該製剤と同一供血者から製造された70本の原料血漿のうち67本は確保・ 廃棄済み(3本は使用済み)。新鮮凍結血漿は、14本製造で11本確保済み(3 本は医療機関供給済み)。赤血球製剤6本は医療機関供給済み。
- (2) 検体検査の状況
- ・ 保管検体81本のHCV個別NATはすべて陰性。
- ・ 供血者81人中<u>77人</u>が献血に再来又は再採血し、HCV関連検査は陰性であった。
- (3) 患者検体の調査
 - ・ 輸血後の検体でHCV-RNA陽性が確認された。
- (4) 担当医の見解
- ・ C型肝炎が死期を早めたと思われるが、輸血かC型肝炎の原因であるとの証明 はされていないとのこと。
- (5) 併用薬等
 - ・ 当該患者は、輸血と同時期に乾燥アンチトロンビン、乾燥スルホ化グロブリン、人血清アルブミンを併用していた。
- 4 今後の対応
 - (1) 今後、遡及調査ガイドラインの徹底を進める。
 - (2) 再来していない供血者4人のフォローアップを引き続き行う。

輸血用血液製剤で細菌感染が疑われた事例(1月10日報告)について

1 経緯

平成19年1月10日及び2月26日、日本赤十字社から輸血(赤血球濃厚液)による細菌感染の疑い事例で患者が死亡した症例の報告があった。

2 事例

60歳代の女性。原疾患は肝疾患、腎疾患、糖尿病。平成18年12月9日に、輸血(赤血球濃厚液合計4単位2本)を受ける。12月11日、静脈血培養にて MRSA を認めた。12月16日、未明より呼吸苦増悪、午前5時呼吸促迫となり、pH6.954、乳酸8.3、B.E-28.8(血ガス)と著明なアシドーシスとなり緊急透析開始。sepsis を示す所見、血中での MRSA を認め、病状はさらに悪化、12月18日に乳酸アシドーシスにて死亡。

3 状況

- (1) 輸血された血液製剤について
 - ・当該患者には、2人の供血者から採血された赤血球濃厚液を輸血。
 - ・当該製剤と同一供血者から製造された2本の原料血漿及び1本の新鮮凍結血漿は全て確保済み。
 - ・当該製剤2本は、採血16日目と採血20日目の照射赤血球M・A・P。
- (2) 検体検査の状況
 - ・日本赤十字社において、輸血血液と同一採血番号の血漿2本について、無菌試験はいずれも適合。
- (3) 患者検体の調査
 - ・患者血液培養では、MRSA が同定された。
- (4) 担当医の見解

副作用の程度は重篤であり、本剤との関連性は可能性が小さい。輸血翌日から悪寒・発熱を発症。12月11日施行した静脈血培養で MRSA(ペア)を認め、sepsisから乳酸アシドーシスへ至り死の転帰となる。感染・炎症の focus が、全身 CT 他で不明であり輸血による可能性を検討した。

4 今後の対応

今後、遡及調査ガイドラインの徹底や細菌を除去・不活化する方策の検討を進め、 輸血用血液製剤と細菌感染症の因果関係を明らかにする。

平成18年度感染症報告事例のまとめ(前回報告分以降)について

1 平成18年12月28日報告分から19年4月18日までに報告(新規及び追加)があった感染症報告(疑い事例を含む。供血者からの情報により開始した遡及調査によるものを除く。)は、輸血用血液製剤43件である。輸血用血液製剤の内訳は、

(1) B型肝炎報告事例: 27

(2) C型肝炎報告事例: 8

(3) H I V 感染報告例: 0

(4) その他の感染症報告例: 8

2 B型肝炎報告事例

- (1)輸血前後に感染症検査でHBs抗原(又はHBV-DNA)等が陽転した事例は26例(うち、輸血後NATで陰性又は輸血前後で陽性は2例、輸血後のみNAT陽性は1例)。
- (2) 血液製剤を提供した献血者の保管検体の個別NAT陽性の事例は1例。
- (3) 輸血後に死亡(原疾患又は他の原因による死亡を除く)したとの報告を受けた事例は1例(劇症化例含む。)である。
- 3 C型肝炎報告事例
- (1)輸血前後に抗体検査(又はHCV−RNA)等が陽転した事例は8例(うち、輸血後NATで陰性又は輸血前後で陽 性は2例)。
- (2)使用した血液製剤を提供した献血者の保管検体の個別NAT陽性事例はO例。
- (3)輸血後に死亡(原疾患又は他の原因による死亡を除く)したとの報告を受けた事例は0例。
- 4 H I V 報告事例
- (1)輸血前後に抗体検査等が陽転した事例は0例。
- (2) 使用した血液製剤を提供した献血者の保管検体の個別NAT陽性事例はO例。
- (3) 輸血後に死亡(原疾患又は他の原因による死亡を除く)したとの報告を受けた事例は0例。
- 5 その他感染症報告事例
 - (1)細菌等感染報告事例において、血液製剤を提供した献血者の保管検体の無菌試験陽性事例は 0 例である。 輸血後に死亡(原疾患又は他の原因による死亡を除く)したとの報告を受けた事例は 1 例。
 - (2) A型肝炎感染疑い事例は1例である。
 - ※なお、今回新出となる症例には黄色で色を付した。

တ
\sim

.

.

•

.

			, J. 13.3 H		#	, y, , C 2C	3 - 7														供血者発遡及の場合	
日赤番号	識別番号	FAX受付日	報告受領日	一般名	忠者性別	F齢 原疾患	感染症名	投与年月	投与前検査 (年月)	投与後検査 (年月)	受血者個別 NAT	献血者個別NAT	併用血液製剤 等	備考	使用単位 数	供血者再制血※	同一供血者製剤 確保※	同一供血者製剤 使用※	感染症等 転帰	転帰	供血者完遡及の場合 の供血者保管検体(抗 原、抗体、NAT)(投与 時点)	供血者発遡及の場合の供血者 の検査値
				輸血によるHAV感染報告	例(疑い例を含む。)																
陽転未確3-07025		2007/3/5	2007/3/15	人赤血球濃厚液 新鮮凍結人血漿	女 4	M 心室中隔欠損、心房 中隔欠損、血管疾患	A型肝炎	06/10- 07/01 07/01	HA-Ab(一) (輸血開始後 2ヶ月間)	HA-Ab(+) (07/02)	陰性(輸血前)陰性(輸血後)	保管検体10本に ついてHAV-NAT 実施。 1本:HAV-RNA (一), HA抗体 (+) 9本:HAV-RNA (一), HA抗体		調査結果を受けて、担当医から副作用・感染症と輸血血液と の因果関係なしと考える。FFP 投与による移行抗体の一部と 考えられる、との見解が得られ た。	7単位 8単位	-	4本の新鮮凍結 血漿、6本の血球 MAPを製造。原	原料血漿は2本使 用済み。 新鮮凍結血漿、 赤血球MAPは全 て医療機関へ供 給済み。	非重篤	軽快		
				輸血によるHBV感染報告	例(疑い例を含む。)						(-)										
供血者陽	性事例		1			1				1	1						1				1	
沃Ш·台陵 3-07011	日主 争 7列 A-06000224	4 2007/2/6	2007/2/21	人赤血球濃厚液(放射線照射)	女 5	0 消化器疾患	B型肝炎	06/09	HBsAg(-) HBsAb(-) HBcAb(-) (06-09) 検体量不足の ため検査不能	HBsAg(+) HBsAb(-) HBcAb(+) IgM-HBcAb(+) (07-02) HBsAg(+) HBsAb(-) HBcAb(+) IgM-HBcAb(+) HBV-DNA(+) (07/02)) 陰性(輸血前) 陽性(輸血後)	保管検体1本 HBV-NAT(+)、1 本HBV-NAT(-)			4単位	1/2	2本の原料血漿 を製造し、全て確 保済み。 (原料血漿の1本 は、陽性となった 当該輸血用血液 と同一採血番号 の製剤)		非重篤	未回復		
陽転事例																						
3-06187	A-06000203	3 2006/12/21	2006/12/28	人赤血球溫厚液(放射線照射) 新鮮凍結人血漿	女 7	0 消化器腫瘍	B型肝炎	06/10 06/10	HBsAg(-) (06/09) HBsAg(-) HBsAb(+) HBcAb(+) HBC-DNA(-) (06/10)	HBsAg(+) HBeAg(+) HBeAb(+) HBcAb(+) (06/12) HBsAg(-) HBsAb(+) HBcAb(+) HBV-DNA(-) (06/12)	陰性(輸血前) 陽性(輸血後)	保管検体2本に ついでHBV- NAT(-)			2単位 2単位	1/2	血漿、1本の赤血	MAPは医療機関	中等度	不明		
3-06190	A-06000207	7 2006/12/27	2007/1/10	人血小板濃厚液(放射線照射)	男 6	0 骨腫瘍	B型肝炎	06/07-09	HBsAg(-) (06/04) HBcAb(-) HBV-DNA(+) (06/07)	HBV-DNA(+) HBsAg(+) HBsAb(-) HBeAb(+) HBeAb(+) HBcAb(+) IgM-HBcAb(+) (06/12) HBsAg(+) HBsAb(-) HBcAb(+) HBV-DNA(+) (06/12)) 陰性(輸血前) 陽性(輸血後)	保管検体3本に ついでHBV- NAT(-)		担当医より「副作用・感染症と 輸血血液との因果関係なしと 考える。HBVIこついては今回 の一連の輸血による感染では なく、もさもモャリアーであり ごくわずかに存在していたウイ ルスが、協力が無角治治院に より再活性化したものと考え る」とのコメントあり。	30単位	2/3	3本の原料血漿 を製造し、全て確 保済み。		重篤	未一不亡剖薬貯他と細真感染 復亡に 有版、併わまに巣 を持ちまに巣 を持ちまに巣		
3-06191	A-06000208	3 2006/12/27	2007/1/10	人赤血球濃厚液(放射線照射)	男 9	0 骨折	B型肝炎	06/04	HBsAg(-) (06/04) HBsAg(-) HBsAb(-) HBsAb(+) HBcAb(+) HBV-DNA(+) (06/04)	HBsAg(+) HBsAb(-) HBeAb(+) (06/12) HBV-DNA(+) HBsAg(+) HBsAb(-) HBcAb(+) (06/12)	陰性(輸血前) 陽性(輸血後)	保管検体2本に ついてHBV- NAT(-)		担当医より「副作用・感染症と 輸血血液との因果関係なしと 考える。B型肝炎の輸血後医 染を疑ったが、患者の血液、輸 血のB型肝炎ウイルス検査の 結果、既感染であったことが判 明した」とのコメントあり。	3単位	関連検査院 性、1人は HBsAb(+)、 HBcAb(+)で	料血漿は確保済 み。新鮮凍結血 漿は1本確保済	新鮮凍結血漿は1 本医療機関へ供 給済み。	中等度	未回復		
3-07002	A-06000211	2007/1/9	2007/1/24	人赤血球濃厚液(放射線照射)	女 9	0 呼吸器疾患、骨折	B型肝炎	06/07	HBsAb(-) (06/07) HBV-DNA(-) (06/07)	HBsAg(+) HBv-DNA(+) HBeAg(-) IgM-HBcAb(+) IgM-HBcAb(+) (06/12) HBsAg(+) HBsAb(-) HBcAb(+) HBv-DNA(+) (07/01)) 陰性(輸血前) 陽性(輸血後)	保管検体2本に ついてHBV- NAT(-)			4単位	0/2	1本の原料血漿、 2本の新鮮凍結 血漿を製造。原 料血漿、新鮮凍 結血漿は全て確 保済み。		重篤	軽快		

	- 1. 1±1	1.1 12.1 /	. 13.3 H	いいからの矢利が	W 10	· 91· 1 C 2C /	1 1															
日赤番号	識別番号	FAX受付日	報告受領日	一般名	患者性別	齢原疾患	感染症名	投与年月	投与前検査 (年月)	投与後検査 (年月)	受血者個別 NAT	献血者個別NAT	併用血液製剤 等	備考	使用単位数	供血者再献血※	同一供血者製剤確保※	同一供血者製剤 使用※	感染症等 転帰	転帰	供血者発遡及の場合 の供血者保管検体(抗 原、抗体、NAT)(投与 時点)	供血者発遡及の場合の供血者 の検査値
3-07004	A-06000213	2007/1/16	2007/1/30	人血小板濃厚液(放射線照射)	男 60	贫血	B型肝炎	06/11	HBsAg(-) (06/03) HBsAb(-) HBcAb(-) HBV-DNA(-) (06/11)	HBsAg(+) (07/01) HBsAb(-) HBcAb(-) HBV-DNA(+) (08V-DNA(+) (07/01)	陰性(輸血前)陽性(輸血後)	保管検体1本に ついてHBV- NAT(-)			20単位	-	1本の原料血漿 を製造し、確保済 み。		非重篤	不明	・当該献血:HBV関連 検査陰性、保管検体 個別HBV-NAT(+) (06/11) ・次回敵血:スクリーニ ングNAT(+) (06/12)	患者核体と献血者 (HBV-DNA 關性保管核体) とのHBV塩基 配列の相同性の比較解析領域 は、Pres/S領域を含むP領域 の前半部の1556bpとし、その 塩基配列はPCR direct sequencing法により決定し比較 したが、献血者のサイルス量が 種敬量のうえ、複数のサイルス 日間では、 を出来した。 を出来した。 を出来した。 を比較は、 を上、 をした。 を上、 をした。 をした。 をした。 をした。 をした。 をした。 をした。 をした。 をした。 をした。 の相の相違が見られた。 たったがら にのれば、 にのれ
3-07005	A-06000215	2007/1/22	2007/2/6	人赤血球濃厚液 人赤血球濃厚液(放射線照射) 人血小板濃厚液(放射線照射)	男 60	骨腫瘍	B型肝炎	06/02-08 06/08 06/03-08 06/08	検体なし	HBsAg(-) (06/07) (06/09) HBsAg(+) (07/01) HBsAb(-) HBsAb(-) HBv-DNA(-) (06/07) HBsAb(-) HBsAb(-) HBsAb(-) HBsAb(-) HBsAb(-) HBsAb(-) HBsAb(-) HBV-DNA(+) (07/01)	陰性(輸血前) 陽性(輸血後)	保管検体15本に ついてHBV- NAT(-)			14単位 2単位 50単位 15単位	7/15	14本の原料血 漿、4本の新鮮凍 粧血漿を製造。 原料血漿は7本 破保済み。新鮮 凍結血漿は2本 確保済み。			未回復		
3-07006	A-06000216	2007/1/24	2007/2/6	人赤血球濃厚液 人赤血球濃厚液(放射線照射) 人血小板濃厚液(放射線照射)	男 2	血液腫瘍	B型肝炎	06/09-11 06/10 06/09-10	HBsAg(-) HBsAb(-) (06/09) HBsAg(-) HBsAb(-) HBcAb(-) HBV-DNA(-) (06/09)	HBsAg(-) (06/11) HBsAg(+) (06/12) (07/01) HBV-DNA(+) (06/12)	陰性(輸血前) 陽性(輸血後)	保管検体9本に ついてHBV- NAT(-)			4単位 2単位 40単位	調査中	調査中		非重篤	未回復		
3-07007	A-06000217	2007/2/1	2007/2/15	人血小板濃厚液(放射線照射)	男 70	骨髓異形成症候群	B型肝炎	06/09	HBsAg(-) HBsAb(-) HBsAb(-) (06/12) HBsAg(-) HBsAb(-) HBcAb(-)	HBV-DNA(+) HBsAg(+) HBsAb(-) (07/01) HBsAg(+) HBsAb(-) HBcAb(-) HBV-DNA(+) (07/01)	陰性(輸血前) 陽性(輸血後)	保管検体1本に ついてHBV- NAT(-)			10単位	-	1本の原料血漿を製造し、保保済み。 なりは、1本の原料を製造し、水の耐血血液から1本の原射に変われるで、1本の原射に変われるで、1本の原料を製は、1本の原料を製は、1本の原料を製は、1本の原料を製は、1本の原料を製は、1本の原料を製は、1本の原料を製は、1本の原料を製は、1本の原料を製は、1本の原料を製は、1本の原料を製は、1本の原料を製は、1本の原料を製は、1本の原料を製は、1本の原料を製造し、1本の原料を発送し、1本の原料を発送し、1本の原料を発送し、1本の原料を発送し、1本の原料を発送し、1本の原料を発送し、1本の原料を発送し、1本の原料を発送し、1本の原料を発送し、1本の原料を発送し、1本の原料を発送し、1本の原料を発送し、1本の原料を製造し、1本の原料を発送し、1本の原料を発送し、1本の原料を製造し、1を制度を制度を制度を制度を制度を制度を制度を制度を制度を制度を制度を制度を制度を	給済み。(輸血された患者は原疾	非重篤	不明	遡及調査対象事例 ・当該館血:HBV関連 検査適合:HBV DNA(-)(06/09) ・次回敵血:HBV DNA(-)(06/10) ・次々回敵血:HBV DNA(-)(06/10)	患者核体と献血者(次々回献血時のHBV-DIA開催保管核 (外のHBV基配列の相同性の比較解析領域は、PreS/S領域を含む予領域の前半部の 1556boとし、その堪基配列は PCR direct sequencing法によ り決定し比較したところ、両者 は全て一致した。献血者と患者 のHBVは各のtotype Cで塩基配 列からSubtypeは3adを指定した。
3-07012	A-06000225	2007/2/7	2007/2/21	人血小板濃厚液(放射線照射) 人赤血球濃厚液 人赤血球濃厚液(放射線照射)	男 10	血液腫瘍	B型肝炎	06/06-12 06/06-10 06/07-09	HBsAg(-) HBsAb(-) (06/06) HBsAg(-) HBsAb(-) HBcAb(-) HBV-DNA(-) (06/06)	HBsAg(+) HBsAb(-) HBeAg(-) HBeAb(+) (07/02) HBsAg(+) HBsAb(-) HBcAb(+) HBV-DNA(+) (07/02)	陰性(輸血前) 陽性(輸血後)				180単位 34単位 6単位	17/38	37本の原料血 漿、2本の新鮮凍 結血漿を製造し、 全て確保済み。		重篤	未回復		
3-07013	A-06000226	2007/2/8	2007/2/22	人血小板濃厚液(放射線照射)	男 50	骨腫瘍	B型肝炎	06/05-10	HBsAg(-) HBsAb(-) (06/05) HBsAb(-) HBsAb(+) HBV-DNA(-) (06/05)	HBsAg(+) HBsAb(-) (06/11) HBV-DNA(+) (06/12) HBeAg(+) HBeAb(-) IgM-HBcAb(-)	陰性(輸血前) 陽性(輸血後)	保管検体3本に ついてHBV- NAT(-)		- 1997頃よりHBsAb(+)が出たことがあるとのこと。 とがあるとのこと。 担当医より3割作用・感染症と 輸血血液との33果関係なしと 考える」とのコメントあり。		2/3	3本の原料血漿 を製造し、1本確 保済み。	2本の原料血漿は 使用済み。	非重篤	未回復		

	四月刊刊	1) TITE 15.1 /	ם נים ייד	C 印かりの史 新り	II 10	が丁し扱り	IN)															
日赤番号	識別番号	FAX受付日	報告受領日	一般名	患者性別	齢 原疾患	感染症名	投与年月	投与前検査 (年月)	(年月)	受血者個別 NAT	献血者個別NAT	併用血液製剤 等	備考	使用単位 数	供血者再献血※	同一供血者製剤確保※	同一供血者製剤 使用※	感染症等 転帰	転帰	供血者発遡及の場合 の供血者保管検体(抗 原、抗体、NAT)(投与 時点)	供血者発遡及の場合の供血者 の検査値
3-07016	A-06000229	2007/2/13	2007/2/22	人血小板濃厚液(放射線照射) 人赤血球濃厚液(放射線照射)	男 6	骨腫瘍	B型肝炎	06/09-12 06/08-11	HBsAg(-) (06/07) HBcAb(+) HBV-DNA(+) (06/08)	HBV-DNA(+) (07/01) HBsAg(-) HBsAb(+) HBV-DNA(-) (06/09) HBV-DNA(+) (06/10,11) HBsAb(+) HBcAb(+) HBV-DNA(+) (06/12) HBV-DNA(+) (07/02)	陽性(輸血前) 陽性(輸血後)	保管検体28本に ついてHBV- NAT(-)			120単位 32単位	査陰性、1 人は HBsAb(+)か つHBcAb(+) であり、当	26本の原料血 漿、7本の新鮮凍 筋料準を製造。 筋料準度は本 廃棄係みで25本 環発剤がで25本 で優保済み、で26本 で保済み。		非重篤	未回復		
3-07020	A-06000236	2007/2/20	2007/3/6	新鮮凍結人血漿	男 50) 腎疾患	B型肝炎	06/08	HBsAg(-) HBsAb(-) HBcAb(-) (06/08)	HBsAg(+) (07/01)	陰性(輸血前) 陽性(輸血後)	保管検体2本に ついて実施。 (HBV-NAT(-))			4単位	0/2	2本の原料血漿、 2本の赤血球 MAPを製造。	原料血漿は全て 使用済み。 赤血球MAPは全 て医療機関へ供 給済み。	重篤	未回復		
3-07021	A-06000237	2007/2/20	2007/3/6	人赤血球濃厚液(放射線照射)	男 6	消化器腫瘍	B型肝炎	06/08	HBsAg(-) (06/07)	HBsAg(+) (06/09)	陰性(輸血前)	保管検体3本に ついてHBV-NAT 実施。(全て HBV-RNA(-))		・本症例は2月20日のFAX報告 後に入手した詳細情報で、劇 症肝炎であるという担当医の 見解が判明した。 ・患者は10月25日、多臓器不 全により死亡。剖検あり。	4単位	0/3	3本の原料血漿 を製造。原料血 漿は全て確保済 み。		重篤	死亡		
3-07023	A-06000241	2007/2/23	2007/3/9	人赤血球濫 厚液 人血小板 滥 厚液	男 5	血液腫瘍	B型肝炎	06/06-11 06/07-11	HBsAg(-) (06/06)	HBsAg(+) (07/02)	陽性(輸血後)	保管検体38本に ついてHBV-NAT 実施。(全て HBV-RNA(一))			30単位 230単位	16/38 14人はHBV 関連検査(36本の原料血 漿、10本の新鮮 凍結血漿を製 遠。原料血漿は 35本確保済み。 新鮮凍結血漿は 全で確保済み。	原料血漿は1本使 用済み。	非重篤	未回復		
3-07030	A-06000260	2007/3/6	2007/3/20	人赤血球濃厚液(放射線照射)	女 70) 消化器腫瘍、貧血	B型肝炎	05/11- 06/06	HBsAg(-) HBsAb(-) (05/11)	HBsAg(+) (07/02) HBsAb(-) (07/03) HBeAg(+) HBeAb(-) HBcAb(+) (07/02)	陽性(輸血後)	保管検体11本に ついてHBV-NAT 実施。(全て HBV-DNA(一))			14単位	6/11	11本の原料血 漿、3本の新鮮凍 結血漿を製造。 新鮮凍結血漿1 本は確保済み。	原料血漿は全て 使用済み。 新鮮凍結血漿2本 は医療機関へ供 給済み。	重篤	未回復		
3-07031	A-06000261	2007/3/6	2007/3/20	人赤血球濃厚液(放射線照射) 人血小板濃厚液(放射線照射) 人血小板濃厚液HLA(放射線照 射)	女 6	骨腫瘍	B型肝炎	06/05 06/09-10	HBsAg(-) HBsAb(-) HBcAb(+) (06/05)	HBsAg(+) (07/02) HBV-DNA(+) (07/03)	陽性(輸血後)	保管検体11本に ついてHBV-NAT 実施。(全て HBV-DNA(-))			10単位 50単位 10単位	6/11	11本の原料血漿 を製造し、9本確 保済み。	原料血漿は2本使 用済み。	重篤	未回復		
3-07032	A-06000262	2007/3/8	2007/3/20	人赤血球濃厚液(放射線照射)	女 61	腎疾患	₿型肝炎	06/10-12	HBsAg(-) (06/09)	HBsAg(+) HBV-DNA(+) (07/01)	核体なし	保管検体3本に ついてHBV-NAT 実施、(全て HBV-DNA(一))		医療機関が感染症の予防および感染症の患者に対する医療に関する法律に基づき、所 もの感に関する法律に基づき、所 もの。 は、自動性を発生を使用していた。 は、自動性を発生を行っていたが、 が、中心では、自動性を発生が、中心では、 は、中心では、 は、中心では、 は、中心では、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は	4単位	0/3	4本の原料血漿 を製造。原料血 競は全て確保済 み。		重篤	死亡 (日型副症 (投炎一輪血 (足炎) (足炎) (し)		
3-07033	A-06000270	2007/3/12	2007/3/27	人血小板濃厚液(放射線照射) 人赤血球濃厚液	男 7:	. 血液腫瘍	B型肝炎	06/07-08 06/07-08	HBV-DNA(-) (06/07) HBcAb(+) (03/06)	HBV-DNA(+) HBsAg(+) (06/11)	調査中	保管検体7本に ついてHBV-NAT 実施予定。			50単位 4単位	調査中	調査中	調査中	重篤	未回復		
3-07034	A-06000271	2007/3/12	2007/3/27	人血小板濃厚液(放射線照射) 人赤血球濃厚液(放射線照射)	女 8	血液腫瘍	B型肝炎	06/08- 07/01 06/08- 06/12	HBsAg(-) (06/12)	HBsAg(+) (07/02) HBV-DNA(+) (07/03)	陽性(輸血後)	保管検体6本に ついてHBV-NAT 実施。(全て HBV-DNA(一))			20単位 8単位	2/6	6本の原料血漿、 1本の新鮮凍結 血漿を製造。原 料血漿は全て確 保済み。新鮮凍 結血漿は確保済 み。		非重篤	不明		

日赤番号	識別番号	FAX受付日	報告受領日	一般名	患者性別	齢原疾患	感染症名	投与年月	投与前検査 (年月)	投与後検査 (年月)	受血者個別 NAT	献血者個別NAT	併用血液製剤 等	備考	使用単位数	供血者再献血※	同一供血者製剤確保※	同一供血者製剤 使用※	感染症等 転帰	転帰	供血者発遡及の場合 の供血者保管検体(抗 原、抗体、NAT)(投与 時点)	供血者発遡及の場合の供血者 の検査値
3-07036	A-06000273	3 2007/3/16	2007/3/30	人血小枢 滥 厚液 人赤血球 滥 厚液	男 15	血液腫瘍	B型肝炎	06/02 06/02	HBsAg(-) (05/05)	HBsAg(+) (07/02)	陰性(輸血前) 陽性(輸血後)	保管検体7本に ついてHBV-NAT 実施。(全て HBV-DNA(一))			50単位 4単位	6/7 (5人はHBV 関連検査(-)、1人は HBs抗体の み(+)で、時に おいて関連ない HBV関連検 査(-)であっ た。)	血漿を製造。医療機関に供給された原料血漿のうち、1本は確保	医療機関へ供給 済み。5本は使用 済み。新鮮凍結 血漿は、全て医療	重篤	未回復		
3-07037	A-07000001	2007/3/19	2007/4/2	人赤血球濃厚液	女 700	関節炎	日型肝炎	06/09	HBsAg(-) (06/09)	HBsAg(+) (07/03) HBV-DNA(+) (07/04)	陽性(輸血後)	保管検体2本に ついてHBV-NAT 実施。(全て HBV-DNA(一))		・献血者の1人が当該献血約 4ヶ月後の2007年1月1日型軒 5を発症し、現在復養中であ るという情報を2007年4月5日 に入手。 - 医療機関での接査結果(2007年 年月19日日間)・旧ちA(4)・ 日とA(4)・日とA(4)・以析 日とA(4)・日とA(4)・以析 日とA(4)・日とA(4)・以析 日とA(4)・日とA(4)・日本 日本(4)・日本(4)・日本 日本(4)・日本(4)・日本 日本(4)・日本(4)・日本(4)・日本 日本(4)・日本(4	4単位	0/2	2本の原料血漿、 2本の新鮮凍結 血漿を製造。全 て確保済み。		重篤	未回復		
3-07039	A-07000003	3 2007/3/23	2007/4/4	人血小板濃厚液(放射線照射)	男 65	血液腫瘍	B型肝炎	06/02	HBsAg(-) (06/01)	HBsAg(+) (07/03)	調査中	保管検体1本に ついてHBV-NAT 実施予定。			10単位	献血者一人 は献血に再 来。(HBV 関連検査(-	を製造。使用の		重篤	未回復		
3-07041	A-07000007	2007/3/30	2007/4/13	人赤血球溫厚液(放射線照射) 人赤血球溫厚液 人新鮮凍結血漿	男 60	腎疾患、心疾患等	B型肝炎(疑い)	06/11 06/11 06/11	HBsAg(-) (06/11)	HBsAg(+) (07/03)	調査中	保管検体13本 について、個別 NATを実施したと ころ、12本でHB VーDNA(一)、1 本でHBVーDN A(+)		・ウイルス解析 患者線体と敵血者(HBV陽性 健智検体)とでPmS/S領域を 含むP領域の前半節の1550bp の塩基配列を比較したところ、 両者の塩基は配列にも部所に おいて相違が見られたが、それ れ以外は全て一致した。敬血 者と患者のHBウイルスは GentypeOで埋棄配列から Subtype[はadwと推定した。	6単位 10単位 10単位	調査中	調査中		非重篤	調査中		
3-07046	A-07000012	2 2007/4/18		人赤血球溫厚液(放射線照射) 人赤血球溫厚液 人血小板溫厚液(放射線照射) 人新鮮凍結血漿	男 300	心疾患	B型肝炎	06/07 06/06-09 06/06 06/06- 07/01	HBsAg(-) HBcAb(-) HVB-DNA(-) (06/06)	HBsAg(+) HBcAb(+) HVB-DNA(+) (07/04)	陰性(輸血前) 陽性(輸血後)	保管検体71本に ついてHBV-NAT 実施。(70本 HBV-NAT(-)、1 本HBV-NAT(+))			8単位 54単位 30単位 76単位	HBV- DNA(-)37/70 (31人は HBV関連検 査(-) (31人は HBSAB(+) (31人は HBSAB(+) (4) HBSAB(+) (4) HBV- DNA(+)1/1 (HBV関連 検査(-) 実施 予定)	漿、5本の新鮮凍 結血漿、37本の 赤血球MAP、1本 の洗浄赤血球を 製造。新鮮凍結	凍結血漿は2本医療機関へ供給済 み。赤血球MAP	重篤	未回復		
輸血後N 輸血前後	ATで陰性又 をで陽性	えば		1				1	1	1		1	1		1	1		原料血漿けすべ		1	1	
3-07019	A-06000235	5 2007/2/19	2007/3/2	人赤血球濃厚液	男 70	消化器腫瘍	B型肝炎	05/09	HBsAg(-) (05/09)	HBsAg(+) HBsAb(+) HBcAb(+) (07/01)	陽性(輸血前) 陽性(輸血後)	保管検体4本に ついて実施。 (HBV-NAT(-))			6単位	3/4	血漿を製造。	原料血漿はすべ て使用済み。 新鮮凍結血漿は2 本医療機関へ供 給済み。		不明		
輸血後N	ATでのみ陽	易性							1	Iup-A-/i)	1	1			1	1	3年切原料皿架、					
3-06189	A-06000206	3 2006/12/27	2007/1/10	人赤血球濃厚液	女 60	腎疾患、自己免疫疾 患、代謝異常疾患	B型肝炎	06/05-06	HBsAg(-) (06/05) HBV-DNA(+) (06/05)	HBsAg(+) HBsAb(-) HBeAg(+) HBcAb(+) (06/12) HBsAg(+) HBsAb(-) HBcAb(+) HBV-DNA(+) (06/12)	陽性(輸血後)	保管検体3本に ついてHBV- NAT(-) く追加> 保管検体6本に ついてHBV- NAT(-)		担当医が被疑薬6本を追加	6単位	<追加> 4/6	1本の新鮮凍結 血漿を製造し、原 料血漿は1本確 保済み。新鮮凍 結血漿は確保済 み。	<追加>	軽微	未回復		

日赤番号	識別番号	FAX受付日	報告受領日	一般名	患		原疾患	感染症名	投与年月		投与後検査	受血者個別	献血者個別NAT	併用血液製剤	備考	使用単位	供血者再献	同一供血者製剤	同一供血者製剤	感染症等	転帰	供血者発遡及の場合の供血者保管検体(抗	供血者発遡及の場合の供血者
					別					(年月)	(年月)	NAT		79		釵	ш-ж	確保※	使用水	転帰		原、抗体、NAT)(投与 時点)	の検査値
				輸血によるHCV感染報告	告例((疑し	ハ例を含む。)																
陽転事例																							
3-06192		2006/12/28	2007/1/10	人血小板濃厚液(放射線照射) 人赤血球濃厚液(放射線照射)	男	70	骨腫瘍	C型肝炎	05/12 05/12-	HCV-Ab(-) (05/10) HCV-RNA(-)	HCV-Ab(+) HCV-RNA(+) HCVcAb(+) (06/12)	陰性(輸血前)陽性(輸血後)	ついてHCV-			30単位 16単位	8/13	漿、3本の新鮮凍	原料血漿は全て 使用済み。新鮮 凍結血漿は全て	重篤	未回復		
				入外血环感序/X(IX为)称(R71)					06/01	(05/12、 06/01) HCV-Ab(-)	HCV-RNA(+) (06/01) HCV-Ab(+) (06/09)	PM II (和 III (X)	NAT(-)			10年位		結血漿を製造。	医療機関へ供給済み。				
3-07001	A-06000210	2007/1/4	2007/1/18	人赤血球濃厚液(放射線照射)	女	40	肝疾患、貧血	C型肝炎	05/10	(05/09) HCV-Ab(-)	HCV-RNA(+) (06/10) HCV-Ab(+) HCV-RNA(+) (06/11)	陰性(輸血前) 陽性(輸血後)			担当医より「副作用・感染症と 輸血血液との因果関係なし」と のコメントあり。	2単位	1/1	を製造。	原料血漿は使用 済み。	非重篤	未回復		
3-07008	A-06000218	3 2007/2/2	2007/2/15	人赤血球濃厚液	男	60	褥瘡	C型肝炎	06/07	HCV-Ab(-) (06/07) HCV-RNA(-) (06/07) HCV-Ab(-)	HCV-cAg(+) HCV-Ab(+) (07/01) HCV-RNA(+) (07/01) HCV-Ab(+)	陰性(輸血前) 陽性(輸血後)	保管検体3本に ついてHCV- NAT(-)			4単位	1月3日		新鮮凍結血漿は 医療機関へ供給 済み。	重篤	未回復		
3-07014	A-06000227	2007/2/8	2007/2/22	人赤血球濃厚液(放射線照射)	女	70	腎疾患	C型肝炎	06/09	(06/08) HCV-Ab(-)	(07/02) HCV-Ab(-) HCV-RNA(-) (07/02)	陰性(輸血前) 陽性(輸血後)	保管検体1本に ついてHCV- NAT(-) 保管検体4本に			2単位	0/1	1本の原料血漿 を製造し、確保済 み。		重篤	未回復		
3-07029	A-06000259	2007/3/5	2007/3/19	人赤血球濃厚液(放射線照射)	女	50	骨折、出血	C型肝炎	06/11-12	HCV-Ab(-) (06/11)	HCV-Ab(+) (07/02)	陽性(輸血後)	ついてHCV-NAT 実施。(全て HCV-RNA(一))			6単位	0/4	4本の原料血漿 を製造し、全て確 保済み。		非重篤	未回復		
3-07038	A-07000002	2 2007/3/20	2007/4/2	人血小板濃厚液(放射線照射)	男	68	骨折	C型肝炎	06/10	HCV⊐ 7 Ag(−) HCV−Ab(−) (06/10)	HCV⊐ 7 Ag(+) HCV-Ab(+) (07/03)) 陽性(輸血後)	保管検体1本に ついてHCV-NAT 実施。(HCV- RNA(-))		調査結果を受けて、担当医から副作用・感染症と輪血血液と の因果関係なしと考える。	10単位	献血者一人 は献血に再 来。(HCV 関連検査(-))。	1本の原料血漿 を製造。原料血 漿は確保済み。		非重篤	回復		
輸血後NA 輸血前後	ATで陰性又 で陽性	Z(は																					
3-07022	A-06000238	2007/2/20	2007/3/6	人赤血球濃厚液(放射線照射) 人赤血球濃厚液	女	50	腎疾患	C型肝炎	06/03 06/02	HCV-Ab(-) (06/01)	HCV-Ab(+) (06/12) HCV-RNA(+) (07/01)	陽性(輸血前) 陽性(輸血後)	保管検体4本に ついてHCV-NAT 実施。(全て HCV-RNA(-))		上記調査結果を受けて、担当 医から副作用・感染症と輸血 血液との因果関係なしと考える との見解が得られた。	2単位	3/4 (HCV関連 検査(一))	3本の原料血漿、 3本の新鮮凍結 血漿を製造。	原料血漿は全て 使用済み。新鮮 凍結血漿は全て 医療機関へ供給 済み。	重篤	未回復		
3-07024	A-06000242	2007/2/27	2007/3/9	人赤血球濃厚液(放射線照射)	女	60	消化器腫瘍	C型肝炎	05/07	HCV-Ab(-) (05/07)	HCV-Ab(+) (06/10) HCV-Ab(+) (07/01)	陰性(輸血後)	保管検体3本に ついてHCV-NAT 実施。(全て HCV-RNA(ー))			6単位	3/3	3本の原料血漿、 2本の新鮮凍結 血漿を製造。	原料血漿は全て 使用済み。新鮮 凍結血漿は全て 医療機関へ供給 済み。	非重篤	不明		
				輸血による細菌等感染報	会告 修	列(疑																	
3-07003	A-06000212	2007/1/10	2007/1/24	人赤血球濃厚液(放射線照射)	女	60	肝疾患、腎疾患、糖尿病	細菌感染	06/12	_	院内血培にて MRSA検出	検体なし	同一採血番号の 血漿2本で無菌 試験実施:「適 合」			4単位	_	2本の原料皿泉、 1本の新鮮凍結 血漿を製造。原 料血漿は全て確 保済み。新鮮凍 結血漿は確保済		重篤	死亡(乳酸アシドーシスにより死亡。本剤との関連性不明)		
3-07010 →取り下げ		2007/2/5		人赤血球濃厚液(放射線照射)	男	70	消化器腫瘍	細菌感染	07/02	_	当該輸血前日 の院内血培に て陽性		投与中止の当該 製剤で無菌試験 実施予定		・本症例の患者は上記と同一 の患者 ・担当医が細菌感染を疑って いないことが判明したため、 FAX報告取り下げ	2単位	_	調査中		重篤	回復		
3-07009	A-06000219	2007/2/2	2007/2/15	人赤血球濃厚液(放射線照射) (<mark>採血11日目</mark>)	男	70	消化器腫瘍	細菌感染	07/01	_	院内血培にて 陽性 Staphylococc us属が検出さ れた。	非溶血性副作 ・用関連検タンパク質性 ・血漿タンパ査・ は ・血漿タンパ査・ 質欠損をし ・質損なし	投与中止の当該 製剤で無菌試験 実施。無菌試験 結果:「適合」		本症例は1月31日に血圧低 下、皮疹として情報入手し、3 日報告の生婦を進めていた が、2月2日に患者血培が陽性 になったとの追加情報を入手し たため、感染症例として報告し た。	2単位	_	1本の原料血漿 を製造。原料血 漿は確保済み。		重篤	回復		

	- 1 + 1 + t	17 1111 1771 (ם נינו יד	いっつの大利が	110	(N) 1 C2C	J\/															
日赤番号	識別番号	FAX受付日	報告受領日	一般名	患者性別	齡原疾患	感染症名	投与年月	投与前検査 (年月)	投与後検査 (年月)		献血者個別NAT	併用血液製剤 等	備考	使用単位数	供血者再献血※	同一供血者製剤 確保※	同一供血者製剤 使用※	感染症等 転帰	転帰	供血者発遡及の場合 の供血者保管検体(抗 原、抗体、NAT)(投与 時点)	供血者発遡及の場合の供血者 の検査値
3-07015	A-06000228	2007/2/9	2007/2/22	新鮮凍結血漿-LR	女 7	血液腫瘍	細菌感染	07/01	-	院内血培にて 表皮ブドウ球 菌検出	非溶連連線 ・抗血性検索 ・抗質抗 ・抗質抗 ・血性 ・血性 ・血質 が受損 ・血質 が長期 ・抗 が が を が は が は が は が は が は が は が は が は が は が は が は が は が は が は が は が は が は は は は は は は は は は は は は	試験、当該製剤 セグメントチュー ブで細菌培養試 験結果表皮ブド			2単位	-	1本の新鮮 <mark>凍結</mark> 血 <mark>漿</mark> を製造し、確 保済み。		重篤	軽快		
3-07017	A-06000233	2007/2/19	2007/3/2	人赤血球濃厚液(放射線照射) 新鮮凍結人血漿 人血小板濃厚液(放射線照射)	女 1.	⁷ 超低出生体重児	細菌感染	07/01-02 07/02 07/02	IgM-CMV- Ab(-) (07/01)	IgM-CMV- Ab(+) (07/02)	_	保管検体7本に ついてCMV-Ab 検査予定			5単位 1単位 5単位	I-	球MAPを製造。 原料血漿は使用	新鮮凍結血漿は1 本医療機関へ供 給済み。赤血球 MAPは医療機関 へ供給済み。		未回復		
3-07018	A-06000234	2007/2/19	2007/3/2	人赤血球濃厚液(放射線照射) 新鮮凍結人血漿	女	7 超低出生体重児	細菌感染	06/11-12 06/12	-	BM-CMV BM-CMV BM-CMV Ab(+/-) (06/12) (06/12) (06/12) (06/12) (26MV - Ab(+) (26MV - Ab(+) (26MV - Ab(+) (26MV - Ab(+) (37MV - Ab(+)		保管検体6本についてEBV関連 でも文字を予定。保管検体2本についてCBV関連 検査実施予定。		母親はjgM-CMV-Ab(-)、jgG- CMV-Ab(+)(06/12)	5単位 1単位	-	5本の原料血漿、 1本の原料連漿、 1本の新鮮凍結 洗浄原本血球を製は 送伊原の有無を 電便の で 金中。	新鮮凍結血漿、 照射洗浄赤血球 は医療機関へ供 給済み。	重篤	未回復		
3-07026	A-06000251	2007/3/5	2007/3/15	人血小板濃厚液(放射線照射) (採血2日目)	女 70) 血液疾患	細菌感染	07/03	-	院内血培にて MRSAを同 定。	非溶血性副作用関連検査・対質抗体検査・ 陰性・血漿タンパク質欠損検査・ 質欠損なし	投与中止の当該 製剤で無菌試験 実施。MRSA検出 (一)。 同一採血番号の 血漿(1本)で無 菌試験を実施。 結果:「適合」			10単位	-	1本の原料血漿 を製造し、確保済 み。		重篤	回復		
3-07027	A-06000257	2007/3/5	2007/3/19	人血小板濃厚液(放射線照射)	女 20	血液腫瘍	細菌感染	07/03	_	院内血培は陰 性。	非常連接を ・抗血性を ・抗血性を ・抗血性を ・抗性を ・抗力を ・加度を ・血性を ・抗力を ・抗力を ・抗力を ・抗力を ・血性を ・が ・血性を ・が ・抗力を ・が ・抗力を ・が ・ ・抗力を ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	同一採血番号の 血漿1本で無菌 試験実施。結果: 「適合」			10単位	-	1本の原料血漿 を製造。原料血 漿は確保済み。		重篤	回復		
3-07028	A-06000258	2007/3/5	2007/3/19	人赤血球濃厚液-LR (採血10日目)	男 11	M 心疾患、血管疾患	細菌感染	07/03	-	院内血培にて MRSEを同 定。	非溶血性副作 用関連検査 ・抗血漿タンパ ク質抗体検査: 陰性	投与中止の当該 製剤で無菌試験 実施。無菌試験 結果:「適合」		上記調査結果を受けて、副作用・感染症と輸血血液との因果関係はむと考えるとの担当 医の見解が得られた。	1単位	_	1本の原料血漿 を製造。原料血 漿は確保済み。		重篤	回復		
3-07035	A-06000272	2007/3/13	2007/3/27	人赤血球温厚液 (採血・13日目(ロット13)および11 日目(ロット11)) 人血小板温厚液(放射線照射) (採血3日目) 新鮮球結血漿 (採血298日目)	女 7:	2 血液腫瘍	細菌感染	07/03 07/03 07/03	-	院内にて血培 実施中。	非溶血性副作 用関連検査実 施予定。	・濃厚赤血球 (ロット13)および 濃厚一坪小板で、 同一坪で無度で 漁門一坪で無度で ・濃厚赤血球 (ロット11)および が、現今中止の 当該製剤 で、投場中止の 当該製剤 定。		患者は心停止にて死亡、創検 あり。	4単位 10単位 2単位	_	3本の原料血漿、 1本の新鮮凍結の 加漿-LR、 血漿-LR、 ・原の有無を 健一中。新鮮は が を ・ は ・ は ・ は ・ は ・ は ・ は ・ は ・ は ・ は ・	赤血球MAPは全 て医療機関へ供 給済み。	重篤	死亡 (輸血との関 連性不明)		
3-07040	A-07000006	2007/3/30	2007/4/13	人赤血球濃厚液(放射線照射) (採血20日目)	男 4	6 腎疾患	細菌感染	07/03	_	院内にて血培 実施中。	非溶血性副作 用検査実施予 定。	同一採血番号の 血漿(1本)で無 菌試験を実施予 定。			2単位	_	調査中		非重篤	回復		

平成19年5月23日開催 薬事・食品衛生審議会 運営委員会提出資料

別紙

日本赤十字社

試行的 HEV20 プール NAT 実施状況について (輸血後 HEV 感染の予防対策)

1. 試行的 HEV20 プール NAT 実施状況

北海道赤十字血液センター管内 調査期間: 平成 17 年 1 月 1 日~平成 19 年 3 月 31 日

 献血者数
 HEV-RNA 陽性
 陽性率

 H17. 1~H18. 2*1
 341, 174
 45
 1/7, 582

 H18. 3~H19. 3*2
 294, 255
 27
 1/10, 898

 合計
 635, 429
 72
 1/8, 825

2. HEV-RNA 陽性献血者の内訳 別紙

^{*1} 北海道センターにてNAT実施(ALT高値、検査不合格検体も含む)

^{*2} 血漿分画センターにて NAT 実施(ALT 高値、検査不合格検体は除く)

っ HEV-RNΔ億体去の内部

34

Range 中部 世別 ALT HOV(分) HOV	2.	HEV-RNA陽性	者の内語	尺									調查期間:2005年1月1日~2007年3月31日
1 2006/01/04 32 M 57 + 1 不明レイー 生 2 1 1 + 1 1 1 1 1 1 1 1 1	No.	採血日	年齢	性別	ALT	HEV	抗体		問診 該当			遡及対象	惡血去情報
2 2006/02/27 38 F 11 + 無 プタレバー 生 無 B 2007/27 41 M 103 + H 無 アタレバー 生 無 B 2007/27 42 M N 38 + H 和 R 79レバー ((נט/נ	IgM	IgG	RNA		肉の種類	食べ方	供給製剤	文 加 行 行 加 文
2 2055/02/13 41 MM 110 + B 別答なし 無 4 2055/03/29 53 F 17 + B 別答なし 無 5 2005/03/29 56 F 17 + B 別答なし 無 6 2055/04/10 54 F 7 D 20 + B 7 大幅段 半生 無 7 2 2005/04/19 59 F 16 + B 7 大小形成とう対域日 十分施験 無 1 2 2005/04/19 58 F 18 + B 7 別 大小水流・シン海域日 十分施験 無 1 2 2005/04/19 58 F 18 + B 2 別 人・大小流・シン海域日 十分加験 イ 宗承はし 1 2 2005/04/19 25 M 2 A + + H A アンルバニ・シン海域日 サン加助 イ 宗承により死亡 1 2 2005/04/19 2 M 2 A + + H A アンルバニ・シン海域日 サン加助 イ 宗承により死亡 1 3 2005/04/19 2 M 3 2 + H H M アンルルニ・シン海域日 サンルルニ・シン海域日 新 宗承により死亡 1 3 2005/04/19 2 M 3 2 H H H M アルルニ・シン海域日 サンルルニ・シン海域日 サンルルニ・シン海域日 サンルルニ・シン海域日 サンルルニ・シン海域日 カ 宗成上より死亡	1	2005/01/04	32	М	57			+	無	不明レバー	生	無	
4 2005/03/25 63 F 17 - + 類 回答ない 施 施 施 金 本 本 本 不明レバー(周沙寺) 生 本 者 素血球性残壊のため配内破棄 3 2000/04/15 59 F 16 - + 無 プラボルモン、少別報向 十分知節 無 5 2000/04/15 55 F 16 - + 無 プラボルモン、シの報向 十分加節 無 5 2005/04/20 25 M 24 + + + 無 プンジルルモン、シの報向 十分加額 有 協定成し 10 2005/04/20 25 M 24 + + 本 国際なし、シンが前向 十分加額 有 協定成し、シジをなし 11 2005/04/27 42 M 24 + + 無 回答なし 無 無 無 無 無 無 無 無 無 無 無 無 無 無 無 無	2	2005/02/07	38	F	11			+	無	ブタレバー	生	無	
5 2005/10/27 26 M 30 - + 有 不明いて(間診海) 生 有 余島東型解母類のため設内接着 7 2005/04/10 54 F 20 - + 集 少規則 半生 類 7 2005/04/15 59 F 16 - - + 無 力が配向 十分加胎 十分加胎 8 2005/04/15 55 F 16 - - + 無 力が配向 十分加胎 サー 無 力が配向 十分加胎 無 サンがルージン・フのののののののののののののののののののののののののののののののののののの	3	2005/02/13	41	M	103		<u> </u>	+.	無	回答なし		無	
8 2005/04/10 54 F 20 + 無 ウ化物 中央 中央	4	2005/03/25	65	F	17		-	+	無	回答なし		無	,
2006/04/15 59 F 10 + 数 ブッボルモン、シカ猪肉 十分加熱 株 ヤシののグイ/15 35 F 16 + 数 シが痛肉、カン溶剤、カン溶剤、サン溶剤 十分加熱 株 大分のグイ/15 35 F 16 + 数 シが痛肉、カン溶剤、カン溶剤、カン溶剤、サンダイの ヤンパルモン、ビン溶剤 ヤンパルモン、ビン溶剤 ヤンパルモン、ビン溶剤 ヤンパルモン、ビン溶剤 ヤンパルモン、ビン溶剤 ヤンパルモン、ビン溶剤 ヤンパルモン、ビン溶剤 ヤンパルス サンパルス	5	2005/03/27	26	М	38			+	有	不明レパー(問診時)	生	有	赤血球製剤破損のため院内廃棄
8 2005/04/15 55 F 16 - + 量 2005/04/20 25 M 24 + + + カーンシーバー・ビンが構造 十分施施 無 10 2005/04/28 22 M 44 - - + 無 ランボルモン、エッフ積度 十分施勢 有 概念をし 11 2005/06/27 42 M 24 + + + 年 一 + 無 原民思により死亡 12 2005/07/03 58 M 219 + + + 無 回答なし 無 無 原民思により死亡 14 2005/07/05 38 M 219 + + + 集 不明レー、ブラ精育 十分加熱 無 無 原民思により死亡 15 2005/07/05 38 M 15 ー + 集 アラホルモン、フタ精育 中生 重 雇 原民患により死亡 17 2005/09/02 33 M 40 - - <	6	2005/04/10	54	F I	20	~_		4	無	ウシ精肉	半生	無	
2005/04/29 23 M 24 + + + + M 5/シレバー、ビジ精商 + 分加酸 所 宗宗なし 11 2005/06/04/28 22 M 44 + M M 24 + + + M M M 24 + + + M M M M M M M M M M M M M M M M	7	2005/04/15	59	F	16			+	無		十分加熱	無	
9 2005/04/20 25 M 24 + + + + 無 の	ន	2005/04/15	35	F	16	_	_	+	無	シカ精肉、ウシ精肉 ウシレバー、ヒツジ精肉	半生 十分加熱	無	
11 2005/08/07 42 M 24 + + + 無 第 25権所。	9	2005/04/20	25	M	24	+	+	+	無		半生 十分加熱	有	感染なし
12 2005/06/22 51 M 52 + 無 回答なし 無 13 2005/07/03 58 M 219 + + + + 無 不明レバー、プタ精肉 十分加熱 無 14 2005/07/05 22 M 23 + - + 無 回答なし 無 回答なし 無 15 2005/07/05 38 M 15 + 無 回答なし 集 15 2005/07/13 24 M 19 + 無 グタホルモン、ウシ精肉、プタ精肉 生生 有 厨疾患により死亡 生 有 厨疾患により死亡 生 有 厨疾患により死亡 17 2005/09/02 38 M 48 + 無 グラホルモン、プタ精肉 生生 十分加熱 無 ブラホルモン、プタ精肉 生生 十分加熱 無 ブラホルモン、とツジ精肉 ナシホルモン、ヒツジ精肉 ナシホルモン、ヒツジ精肉 ナシホルモン、ヒツジ精肉 ナシホルモン、ヒツジ精肉 ナク加熱 有 HEV感染(H17.11.1 運営委員会報告済み) 19 2005/09/27 20 F 10 + 無 ブラボルモン、ブタ精肉、ブタホルモン、ヒツジ精肉 ナカ加熱 無 22 2005/10/21 41 M 12 + 無 グラボルモン、ブタ精肉、ナカ加熱 無 22 2005/10/25 44 F 38 + + + 無 グタホルモン、ヒツジ精肉 ナカ加熱 無 ブタホルモン、ヒツジ精肉 ナカ加熱 無 22 2005/10/25 44 F 38 + + + + 無 グタホルモン、ヒツジ精肉 ナカ加熱 無 ブタホルモン、ヒツジ精肉 ナカ加熱 無 ブタホルモン、ヒツジ精肉 ナカ加熱 無 ブタホルモン、ウシ精肉、ブタ精肉、エツジ精肉 サカ加熱 無 ブタホルモン、ウシ精肉、ブタ精肉、エツジ精肉 キカ加熱 無 ブタホルモン、ウシ精肉、ブタ精肉 ナウ加熱 無 ブタホルモン、ウシ精肉、ブタ精肉 ナウカ加熱 無 ブタホルモン、ウシ精肉、ブタオ肉肉 ナカ加熱 無 ブタホルモン、ウシ精肉、ブタオ肉肉 ナカ加熱 無 ブタホルモン、ウシ精肉、ブタオ肉肉 ナカ加熱 無 アクルバー、ブタオルモン、ウシ精肉、ブタオ肉肉 ナカ加熱 無 アクルバー、ブタオ内と、ウン精肉、ブタ林肉、ブタ林肉、ブタ林肉、ブタ林肉、ブタ林肉 中分加熱 無 アクルバー、ブタオ肉肉、ブタ林肉、ブタ林肉、ブタ林肉、ブタ林肉、ブタ林肉、ブタ林肉、ブタ林肉、ブタ	10	2005/04/28	22	М	44		[-	+	無	回答なし		無	
13 2005/07/03 58 M 210 + + + + 無 不明ハー、ブタ積肉 十分加熱 無 14 2005/07/05 22 M 23 + - + 無 回答なし 無 75年ルモン、ウシ積肉、ブタ積肉 平生 無 75年ルモン、ウシ積肉、ブタ積肉 平生 有 原疾患により死亡	11	2005/06/07	42	M	24	+	. +	+	無		半生 十分加熱	有	原疾患により死亡
14 2005/07/05 22 M 23 + - + 無 円分を取ります。 無 15 2005/07/05 38 M 15 - - + 無 プタホルモン、ウシ積肉、ブタ精肉 半生 無 17 2005/09/02 33 M 49 - - + 無 ウシ化パー 生 無 無 18 2005/09/02 33 M 49 - - + 無 ウシイルーン、プタイト 無 無 サーク加数 無 18 2005/09/02 33 M 49 - - + 無 ウンイルーン、プタイト 無 無 サーク加数 無 生生 十分加数 無 サーク加数 無 サーク加数 無 サークルルーン・アルルーンのを 無 サークルルールールールールールールールールールールールールールールールールールー	12	2005/06/22	51	М	52	_	-	+	無	回答なし		無	·
15 2005/07/15 38 M 15 + 無 プタホルモン、ウン精肉、ブタ精肉 半生 無 原疾患により死亡 生 有 原疾患により死亡 17 2005/09/02 33 M 49 + 無 ウシレバー 生 有 原疾患により死亡 生 有 原疾患により死亡 2005/09/01 20 F 100 + + 無 グラルルモン、ブタ精肉 半生 十分加熱 無 ブタホルモン、ヒッジ精肉 半ケルルモン、ヒッジ精肉 半ケル素 クラレバー・ウシ精肉 ブタホルモン、ヒッジ精肉 半ケル素 19 2005/09/27 20 F 10 + 無 回答なし 無 サクホルモン、ウシ精肉、ブタホルモン、ヒッジ精肉 十分加熱 無 12 + 無 回答なし 無 サクホルモン、ウシ精肉、ブタホルモン、ウシ精肉、ブタホルモン、ヒッジ精肉 十分加熱 無 12 2005/10/25 44 F 38 + + + 無 カシ精肉、ブタホルモン、ヒッジ精肉 十分加熱 無 カラルルモン、ウシ精肉、ブタホルモン、ヒッジ精肉 十分加熱 無 13 2005/11/07 30 F 21 + 無 ブタホルモン、ウシ精肉、ビッジ精肉 サク加熱 無 15 2005/11/07 31 - F 12 + + + 有 ブタルルモン、ウシ精肉、ビッジ精肉 サク加熱 無 15 2005/11/20 28 M 47 + + + 有 ブタルルモン、ウシ精肉 サク加熱 無 15 2005/11/20 35 F 333 + + + + 有 回答なし 無 原疾患により死亡 無 原疾患により死亡 無 日本の 17 2005/11/20 35 F 333 + + + + 有 回答なし 無 原疾患により死亡 無 原疾患により死亡 十分加熱 有 原疾患により死亡 カラルルモン、ブタ精肉 サカルモン・ウシ精肉 サカルモン・ウシ精肉 サカルモン・ウシ精肉 カルモン・ウシ精肉 カルモン・ウシ精肉 サカルモン・ウシ精肉 カルモン・ウシ精肉 カルモン・ウシ精肉 サカルモン・ウシ精肉 カルモン・ウシ精肉 カルモン・ウシ精肉 サカルモン・ウシ精肉 カルモン・ウシ精肉 カルモン・ウシ精肉 カルモン・カルモン・カルモン・カルモン・カルモン・カルモン・カルモン・カルモン・	13	2005/07/03	58	М	219	+	+	+	無	不明レバー、ブタ精肉	十分加熱	無	
18 2005/07/13 24 M 19 + 無 ウシレバー 生 有 原疾患により死亡 17 2005/09/02 33 M 49 + 無 ウシルバー 生 存 原疾患により死亡 18 2005/09/01 20 F 100 + + + 無 ヴシボルモン、ブラ精肉 十分加熱 無 サンジ精肉 アシレバー、ウシ精肉、ブタボルモン、アジ精肉 サンガ素の 中 大が加熱 有 HEV感染(H17.11.1 適當委員会報告済み) 19 2005/09/20 42 M 31 + 無 ブタボルモン、アジ精肉 サカ加熱 有 HEV感染(H17.11.1 適當委員会報告済み) 20 2005/09/27 20 F 10 + 無 ワシ精肉、ブタボルモン、ヒツジ精肉 サカ加熱 無 サンジ精肉、ブタボルモン、ウシ精肉、ブタボルモン、ウシ精肉、ガタボルモン、ウシ精肉、ガタボルモン、ウシ精肉、ガタボルモン、ウシ精肉、ガタボルモン、ウシ精肉、ガタボルモン、ウシ精肉、ガタボルモン、ウシ精肉、ガタボルモン、ウシ精肉、ガタボルモン、ウシ精肉、ガタボルモン、ウシ精肉、エツジ精肉 無 カタボルモン、ウシ精肉、ヒツジ精肉 無 カタボルモン、ウシ精肉、ビンジ精肉 無 カタボルモン、ウシ精肉、ブタボルモン、ウシ精肉、エツジ精肉 無 カタボルモン、ウシ精肉、ビンジ精肉 サカ加熱 無 カタボルモン、ウシ精肉、エツジ精肉 サカ加熱 無 カタボルモン、ウシ精肉、エツジ精肉 サカ加熱 無 カタボルモン、ウシ精肉、エツジ精肉 サカ加熱 無 カタボルモン、ウシ精肉、エツジ精肉 サカルルモン、ウシ精肉、エツジ精肉 サカルルモン、ウシ精肉、エッジ・カルモン、ウシ精肉、エッジ・カルモン、ウシ精肉、エッジ・カルモン、カシ精肉、カルドー、カル和熱 無 アダボルモン・ウシ精肉、カルドー、カル和熱 無 原疾患により死亡 キケカ加熱 有 PE疾患により死亡 キケカ加熱 有 PE疾患により死亡 キケカ加熱 有 PE疾患(H18.01.26 運営委員会報告済み) 20 2005/12/13 30 M 11 + 有 不明レバー、オタ精肉 PE疾力 無 PSを助し 日経なし 無 PSを助し アダボルー・カル 有 PEを放け 日本の PEを対し 無 PEを対し 無 PEを対し 無 PEを放け PEを放け PEを放け PEを放け HEV感染 (H18.01.26 運営委員会報告済み)	14	2005/07/05	22	М	23	+		+	無	回答なし		無	
17 2005/09/02 33 M 49 - - + 無 ウン精肉 半生 十分加熱 無 サンツ精肉 半生 十分加熱 無 サンツ精肉 サエ サンツ・ボーマ・アンダ素タ サンツ・ボーマ・アンダ素タ サンツ・ボーマ・アンダ素タ サンル・ア・アンダ素タ サンル・ア・アンダ素タ サンル・ア・アンダ素タ サンル・ア・アンダ素タ サンル・ア・アンダ素タ サンル・ア・アンダ素タ サンガ素タ サンル・ア・アンダ素タ サンガ素タ サンガ素タ サング素タ サンガ素タ サンガ素タ サング素タ サンガ素タ サング素タ サングネタ サングネ	15	2005/07/05	38	М	15		_	+	無	ブタホルモン、ウシ精肉、ブタ精肉	半生	無	
17 2005/09/02 33 M 49 - - + 無 プタホルモン、ブタ精肉 十分加熱 無 プタホルモン、ブタ精肉 十分加熱 無 アタホルモン、アジ精肉 十分加熱 無 サンホルモン、アジ精肉 サンボルモン、アジ精肉 サンボルモン、アジ精肉 サンボルモン、アジ精肉 サンボルモン、アジ精肉 サンボルモン、アジ精肉 サンボルモン、アジ精肉 サンボルモン、アジ精肉 サンボルモン、アジオオロ サンボーエン、アジオオロ サンボルモン、アジオオロ サンボーエン、アジオオロ サンボーエン、アジオオロ サンボーエン、アンボオロ サンボイエン、アンボオロ サンボイエン、アンボオロ サンボイエン、アンボオロ サンボイエン、アンボオロ サンボイエン、アンボオロ サンボイロ サンボ	16	2005/07/13	24	М	19		_	+	無	ウシレバー	生	有	原疾患により死亡
18 2005/09/01 29 F 100 +	17	2005/09/02	33	М	49	_	-	+	無	ヒツジ精肉	生 半生 十分加熱	無	·
20 2005/09/27 20 F 10 + 無 ウシ精肉、ブタホルモン、ヒツジ精肉 十分加熱 無 サーナタ加熱 12 + 年 カシレバー、ブタ精肉、ブタ精肉、ブタ精肉、エツジ精肉 サーナタ加熱 12 + 年 カシレバー、ブタホルモン、ウシ精肉、ブタ精肉、エツジ精肉 サーナタ加熱 12 + 年 オーナタ加熱 12 + 年 オーナタ加熱 12 + 年 オーナタ加熱 12 + 年 オーナタ加熱 12 + 年 カシレバー、ブタホルモン、ウシ精肉、ブタ精肉 サーナタ加熱 12 + オーナタルス・ウン精肉、ブタ精肉 サーナタ加熱 12 + オーナタルス・ウン精肉、ブタ精肉 サーナタ加熱 12 + オーナタルス・ウン精肉 サーナタ加熱 13 + オーナタルス・ウン精肉 サーナタ加熱 14 + オーナタルス・フタオース・ファン・ファン・ファン・ファン・ファン・ファン・ファン・ファン・ファン・ファン	18	2005/09/01	29	F	100	+	+	+	無		半生 十分加熱	無	
21 2005/10/21 41 M 12 - + 無 22 2005/10/25 44 F 38 + + + 無 ウシ精肉、ブタ精肉、ブタ精肉 + ナ分加熱 無 23 2005/11/07 30 F 21 - - + 無 ブタホルモン、ウシ精肉、ブタ精肉、ビツジ精肉 + ナ分加熱 無 24 2005/11/07 31 . F 12 + + + オ ブタホルモン、ウシ精肉、ブタ精肉 十分加熱 無 25 2005/11/20 28 M 47 + + オ カシレパー、ウマ精肉、ブタ精肉、ブタ精肉 上 26 2005/11/29 35 F 333 + + オ 回答なし 無 27 2005/12/13 42 M 30 - - + 有 不明レバー、ブタ精肉 十分加熱 オ 中分加熱 中分加熱 日にど感染(H18.01.26 運営委員会報告済み) 28 2005/12/13 30 M 11 - - + 有 不明レバー 十分加熱 有 HEV感染(H18.01.26 運営委員会報告済み) 29 2005/12/22 62 F 14 - - + 無 回答なし 無	19	2005/09/20	42	М	31		1 -	+	無	ブタホルモン、不明レバー、ヒツジ精肉	十分加熱	有	HEV感染(H17.11.1 運営委員会報告済み)
22 2005/10/25 44 F 38 + + + 無 ウシ精肉、ブタ精肉 十分加熱 無 23 2005/11/07 30 F 21 - + 無 ブタホルモン、ウシ精肉、ビツジ精肉 + 十分加熱 無 24 2005/11/07 31 . F 12 + + + 有 ブタホルモン、ウシ精肉 十分加熱 無 25 2005/11/20 28 M 47 + + + 有 ウシレバー、ウマ積肉 ブタホルモン、ウシ精肉、ブタ精肉 ブタホルモン、ウシ精肉、ブタ精肉 無 + + 十 用 26 2005/11/29 35 F 333 + + + 有 回答なし 無 27 2005/12/13 42 M 30 - - + 有 中ツシ精肉、ヒッジ精肉 ブタホルモン、ウシ精肉 ア明レバー、ブタ精肉 半生 十分加熱 有 原疾患により死亡 28 2005/12/13 30 M 11 - - + 有 不明レバー 十分加熱 有 HEV感染(H18.01.26 運営委員会報告済み) 29 2005/12/22 62 F 14 -	20	2005/09/27	20	F	10		1 -	+	無	ウシ精肉、ブタホルモン、ヒツジ精肉	十分加熱	無	
23 2005/11/07 30 F 21 - + 無 ブタホルモン、ウシ精肉、ヒツジ精肉 無 24 2005/11/07 31 . F 12 + + + 有 ブタホルモン、ウシ精肉、ビツジ精肉 + 分加熱 無 25 2005/11/20 23 M 47 + + + 有 ブタホルモン、ウシ精肉、ブタ精肉 + 十分加熱 無 26 2005/11/29 35 F 333 + + + 有 回答なし 無 27 2005/12/13 42 M 30 - - + 有 小シお精肉、ヒツジ精肉、ビツジ精肉 半生 十分加熱 有 原疾患により死亡 28 2005/12/13 42 M 30 - - + 有 不明レバー、ブタ精肉 十分加熱 有 原疾患により死亡 28 2005/12/13 30 M 11 - - + 有 不明レバー、ブタ精肉 + 十分加熱 有 HEV感染(H18.01.26 運営委員会報告済み) 29 2005/12/22 62 F 14 - - + 無 回答なし 無	21	2005/10/21	41	М	12	_		+	無	回答なし		無	·
23 2005/11/07 30 F 21 ー 十 無 ブタホルモン、ウシ精肉、ビツジ精肉、ビツジ精肉 十分加熱 無 24 2005/11/20 28 M 47 + + + カシレバー、ウマ積肉 土 十分加熱 無 26 2005/11/20 35 F 333 + + + 有 回答なし 無 27 2005/12/13 42 M 30 - - + 有 中シシ精肉、ヒツシ精肉、ヒツシ精肉、エツシ精肉、エツシ精肉、エツシ精肉、エツシ精肉、エツシ精肉、エツシ精肉、エツシ精肉、エツシ精肉、エツシ精肉、エリカル熱 有 原疾患により死亡 28 2005/12/13 30 M 11 - - + 有 不明レバー 十分加熱 有 HEV感染(H18.01.26 運営委員会報告済み) 29 2005/12/22 62 F 14 - - + 無 回答なし 無	22	2005/10/25	44	F	38	+	+	+	無			無	
25 2005/11/20 28 M 47 + + + 有 ウシレバー、ウマ籍内 ブタホルモン、ウシ精内、ブタ精内 無 26 2005/11/29 35 F 333 + + + 有 回答なし 無 27 2005/12/13 42 M 30 - - + 有 中沙シ精内、ヒツジ精内 不明レバー、ブタ精内 半生 十分加熱 有 原疾患により死亡 28 2005/12/13 30 M 11 - - + 有 不明レバー 十分加熱 有 HEV感染(H18.01.26 運営委員会報告済み) 29 2005/12/22 62 F 14 - - + 無 無	23	2005/11/07	30	F	21	_		+	無	ブタホルモン、ウシ精肉、ブタ精肉、ヒツジ精肉		 	
25 2005/11/20 28 M 47 + + + + + + + + +	24	2005/11/07	31	. F	12	+	+	+	有	_1	十分加熱	無	
28 2005/12/13 42 M 30 + 有	25	2005/11/20	28	М	47	+	+	+	有	ウシレバー、ウマ籍肉 ブタホルモン、ウシ精肉、ブタ精肉	生 十分加熱	├ ───	
27 2005/12/13 42 M 30 - + 4 不明レバー、ブタ精肉 十分加熱 キートラル熱 キートラル熱 有 HEV感染(H18.01.26 運営委員会報告済み) 28 2005/12/13 30 M 11 - + 有 不明レバー 十分加熱 有 HEV感染(H18.01.26 運営委員会報告済み) 29 2005/12/22 62 F 14 - + 無 29 2005/12/22 62 F 14 - + 無	26	2005/11/29	35	F	333	+	4	+	有			無	
28 2005/12/13 30 M 11	27	2005/12/13	42	М	30		-	+	有	ウシ精肉、ヒツジ精肉 不明レバー、ブタ精肉	半生十分加熱	有	原疾患により死亡
29 2005/12/22 62 F 14 + 無 回答なし 無 無 に は は は は は は は は は は は は は は は は は	28	2005/12/13	30	М	11		1 -	+	有	不明レバー	十分加熱	有	HEV感染(H18.01.26 運営委員会報告済み)
・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・		2005/12/22	62	F	1/		<u> </u>	+	無	回答なし	<u> </u>	無	
	<u> </u>		42	F	14		<u> </u>	+	無無	回答なし		無	

Г	 							- /	<u></u>		· /	
No.	採血日	年齢	性別	ALT (IU/L)		V抗体	HEV RNA	問診 該当	喫食歴調査		遡及対象 供給製剤	受血者情報
1				(10/2)	IgN	IgG	ISINA	<u>%1</u> _	肉の種類	食べ方	1代和2公司	
31	2006/01/02	22	F	12		-	+	有	ウシレバー、ウシ精肉	十分加熱	無	
32	2006/01/06	68	М	23			+	無	ウシレバー、ブタホルモン、ヒツジ精肉	半生	無	
33	2006/01/13	36	M	42		_	+	無	ウマ精肉、不明レバー ウシ精肉、ヒツジ精肉 ウシレバー、ブタ精肉、ブタホルモン	生 半生 十分加熱	無	
34	2006/01/18	53	M	238	+	+	+	有	ウシレバー、ウシホルモン	十分加熱	無	
35	2006/01/13	31	М	43			+	有	不明レバー ブタ精肉、ヒツジ精肉	半生 十分加熱	無	
36	2006/01/17	48	М	25		-	+	無	回答なし		無	
37	2006/01/25	52	M	25	_	<u> </u>	+	無	不明レバー、ヒツジ精肉	十分加熱	有	輸血後89日現在、HEVマーカーの陽転は見られず追跡調査終了
38	2006/01/30	39	F	22		T -	+	無	回答なし		無	
39	2006/01/30	25	М	32			+	-— 有	ウシ精肉、ウシホルモン、ブタ精肉	十分加熱	無	
40	2006/02/02	39	F	35		+	+	有	ウシレバー ウシレバー ヒッジ精肉	生 半生 十分加熱	無	
41	2006/02/07	57	M	13		<u> </u>	+	無	不明	不明	無	
42	2006/02/07	40	F	172	+	+	+	無	ウシ精肉	十分加熱	無	
43	2006/02/17	39	М	28	-	-	+	無	ブタホルモン、ブタレバー、ブタガツ、ヒツジ精肉 イノシシ精肉、ブタ精肉	半生 十分加熱	無	
44	2006/02/20	58	М	22		1 -	+	無	ヒツジ精肉	十分加熱	無	
45	2006/02/21	45	M	30		<u> </u>	+	無	ウシ精肉 ブタ精肉、ブタレパー、ヒツジ精肉	半生十分加熱	無	
46	2006/03/01	46	F	15	_	<u> </u>	+	無	回答なし		無	
47	2006/03/01	50	F	29		 	+	無	回答なし		無	·
48	2006/03/02	54	М	47	+	+	+	無	ウシ・ブタ(精肉、レバー、ホルモン)、ヒツジ精肉	十分加熱	無	
49	2006/03/27	40	F	12		1 -	+	無	回答なし		無	
50	2006/04/01	31	F	16	_	 	+		ヒツジ精肉	半生	無	
51	2006/04/04	30	F.	14	_	1 -	+		ブタ精肉、不明レバー	十分加熱	無	
52	2006/04/12	38	M	45	+	+	-1-		ブタレバー、ウシ精肉、ブタ精肉、ヒツジ精肉	十分加熱	無	
53	2006/04/18	21	м	26		-	+		ウシ精肉、ウシホルモン ウシ精肉、ウシホルモン	半生 十分加熱	無	
54	2006/04/22	28		14	+	+	+		回答なし	,	無	
55	2006/04/26	46	М	19	-	<u> </u>	+		ブタレバー	半生	無	
56	2006/05/18	62	M	27	_	1 -	+		ヒツジレバー	十分加熱	無	
57	2006/07/07	17	M	33	 	-	+		回答なし		無	
58	2006/07/11	34 .	F	10	 	<u> </u>	+		回答なし		無	
59	. 2006/07/12	21	F	27	/ -	 	+	·	回答なし <u> </u>	<u></u>	無	
60		49	M	46	+	1 _	+		ウシ精肉、ブタ精肉、ブタホルモン、ブタレバー	十分加熱	無	
100	1 2000,01,22	1	1 '''	1 "	1	_!	l	<u> </u>	<u>.l</u>			

(No.	採血日	年齢	性別	ALT	HEV	抗体	HEV	問診 該当 ※1	—————————————————————————————————————		遡及対象	受血者情報
		, ,,,,,		(IU/L)	IgM	IgG	RNA	% 1	肉の種類	食べ方	供給製剤	Z.m-13 194k
61	2006/08/01	62	M	18			+		ブタホルモン、ウシ精肉、ブタ精肉、ヒツジ精肉	十分加熱	無	
62	2006/09/06	44	F	14		_	+		喫食歴なし		無	
63	2006/09/29	68	М	15			+		ブタ精肉、ヒツジ精肉	十分加熱	無	
64	2006/10/21	29	М	22	_	_	+		調査中		無	
65	2006/11/19	48	М	58			+		ウシ精肉、ブタ精肉	十分加熱	無	
66	2006/11/23	54	M	18		_	+		回答なし		無	
67	2006/12/01	43	М	55		+	+		ブタ精肉	十分加熱	無	
68	2006/12/04	60	М	46	+	+	+		ウシ精肉	十分加熱	無	·
69	2006/12/04	47	M	40	+	+-	+		ウシ精肉、ウシホルモン	十分加熱	無	
70	2007/03/01	33	M	41			+		ウシレバー	生	無	
71	2007/03/15	42	М	32		+	+		ブタレバー、ブタホルモン	半生	無	
72	2007/03/27	55	М	30			+		不明レバー	十分加熱	無	

※1: 問診喫食歴調査内容 05年 1月1日~05年10月31日:「過去3ヶ月以内にブタ、シカ、イノシシあるいは動物種不明の生肉、生レバーの喫食歴」 05年11月1日~06年03月31日:「過去3ヶ月以内に生肉(半生も含む)、レバー、ホルモン(動物種、焼き方を問わず)の喫食歴」、なお本調査は06年03月31日をもって終了

事 務 連 絡 平成19年4月26日

日本赤十字社血液事業本部 御中

薬事・食品衛生審議会血液事業部会事務局 厚生労働省医薬食品局血液対策課

血液製剤に関する報告事項について

血液事業の推進に御努力いただき、厚く御礼申し上げます。

さて、標記につきましては、平成19年1月15日付け血安第9号にて貴社から報告をいただいたところですが、平成19年5月23日(水)に平成19年度第1回血液事業部会運営委員会が開催されますので、下記の事項について資料を作成いただき、平成19年4月27日(金)までに当事務局あて提出いただきますようお願いします。記の12については、平成19年1月17日開催平成18年度第4回血液事業部会運営委員会提出資料を更新の上、再度提出ください。

なお、資料の作成に当たっては、供血者、患者及び医療機関の名称並びにこれらの所在地若しくはこれらの事項が特定できる情報を記載しないよう、個人情報及び法人情報の保護に特段の御配慮をお願いします。

記

- 1. 平成15年9月5日付けで報告された輸血用血液製剤でHIVの感染が疑われる事例について、残る2人の供血者のその後の検査結果。来訪がなければ、その旨。
- 2. 平成 1-6年3月2-2-日付けで報告された輸血用血液製剤でHBV-(B型肝 炎ウイルス) 感染が疑われる事例について、残る5人の供血者のその後の検 査結果。来訪がなければ、その旨。
- 3. 平成16年11月26日付けで報告された輸血用血液製剤でHBV(B型 肝炎ウイルス) 感染が疑われる事例について、残る10人の供血者のその後 の検査結果。来訪がなければ、その旨。
- 4. 平成17年1月12日付けで報告された輸血用血液製剤でHBV (B型肝炎ウイルス) 感染が疑われる事例について、残る4人の供血者のその後の検